

〈終戦の詔書（しゅうせんのしょうしょ）現代語訳〉

朕深く世界ノ大勢ト帝國ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ收拾セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク

私（昭和天皇）は、深く世界の大勢と帝國（日本）の現状とを考え、非常の措置を以って時局を收拾しようと思ひ、ここに忠良な国民の皆さんに知らせます。

朕ハ帝國政府ヲシテ米英支蘇四國ニ對シ其ノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告セシメタリ

私は日本政府をして米国・英国・中国・ソ連の四国に対し、その四国共同のポツダム宣言を受け入れるよう通告させました。

抑々帝國臣民ノ康寧ヲ圖リ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ皇祖皇宗ノ遺範ニシテ朕ノ拳々措力サル所

そもそも日本国民が平穏なように図り、世界全体が共栄を樂しめるようにすることとは、皇室の祖先が遺された規範であり、私も謹んで大事に守ってきました。

曩ニ米英二國ニ宣戦セル所以モ亦實ニ帝國ノ自存ト東亞ノ安定トヲ庶幾スルニ出テ他國ノ主權ヲ排シ領土ヲ侵スカ如キハ固ヨリ朕カ志ニアラス

先に（昭和16年12月8日）米国と英国に対して開戦を宣告した理由も、また実に日本の独立と東アジアの安定とを念願してのことであり、他国の主權を排すとか、領土を侵すようなことは、もとより私の意思ではありません。

然ルニ交戦已ニ四歳ヲ閲シ朕カ陸海將兵ノ勇戰朕カ百僚有司ノ勵精朕カ一億衆庶ノ奉公各々最善ヲ盡セルニ拘ラス戦局必スシモ好轉セス世界ノ大勢亦我ニ利アラス加之敵ハ新ニ殘虐ナル爆彈ヲ使用シテ頻ニ無辜ヲ殺傷シ慘害ノ及フ所眞ニ測ルヘカラサルニ至ル

ところが、すでに交戦は四年に及び、私の統帥する陸海軍の將兵が勇敢に戦い、また私の任命した多数の官吏が勤勉に働き、さらに私の信賴する全日本人が奉公に努め、各々最善を尽くしているにも拘わらず、戦争の局面が容易に好転せず、世界の情勢も日本に有利な状況になりません。それだけでなく、敵（米国）は新たに殘虐な原子爆彈を使用して、全く罪の無い庶民まで殺傷するに至り、その悲

惨な被害は測り知れません。

而モ尚交戦ヲ繼續セムカ終ニ我カ民族ノ滅亡ヲ招來スルノミナラス延テ人類ノ文明ヲモ破却スヘシ斯ノ如クムハ朕何ヲ以テカ億兆ノ赤子ヲ保シ皇祖皇宗ノ神靈ニ謝セムヤ是レ朕カ帝國政府ヲシテ共同宣言ニ應セシムルニ至レル所以ナリ

それでも依然として交戦を継続するならば、ついに我が日本民族の滅亡をもたらすのみならず、やがて世界人類の文明をも破壊させることになりかねません。もしこのようなことになれば、私はどうしても我が子のような国民を守り、先祖の神々に謝罪することができるか（できません）。それゆえ、私は日本政府にポツダム宣言を受け入れさせたのです。

朕ハ帝國ト共ニ終始東亞ノ解放ニ協力セル諸盟邦ニ對シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス帝國臣民ニシテ戦陣ニ死シ職域ニ殉シ非命ニ斃レタル者及其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内爲ニ裂ク且戦傷ヲ負ヒ災禍ヲ蒙リ家業ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リテハ朕ノ深く軫念スル所ナリ

私は日本と志を共にして、常に東アジアの欧米からの解放に協力する盟友の国々に対し、遺憾の意を表明するほかありません。また日本国民で戦場において戦死したり、職場において殉職したり、思いがけない戦災や被爆などで命を亡くした人々、及びその遺族たちのことに想いを致すと、自分の全身を引き裂かれるほどです。さらに戦場で傷を負ったり、戦災を受けて住む家や仕事を失った人々の生活を安定させるようなことは、私が深く心を痛めているところです。

惟フニ今後帝國ノ受クヘキ苦難ハ固ヨリ尋常ニアラス爾臣民ノ衷情モ朕善ク之ヲ知ル然レトモ朕ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ以テ萬世ノ爲ニ太平ヲ開カムト欲ス

考えてみると、これから日本国家が受ける苦難は、当然大変なことにならざるをえません。国民の皆さんの心情も私はよく判っています。しかしながら、私は時の運がこうなった以上、耐え難いことを耐え忍び難きも忍ぶことによって、将来の世代のために平和への道を開きたいと思えます。

朕ハ茲ニ國體ヲ護持シ得テ忠良ナル爾臣民ノ赤誠ニ信倚シ常ニ爾臣民ト共ニ在リ若シ夫レ情ノ激スル所濫ニ事端ヲ滋クシ或ハ同胞排擠互ニ時局ヲ亂リ爲ニ大道ヲ誤リ信義ヲ世界ニ失フカ如キハ朕最モ之ヲ戒ム

私はこうして、日本らしい国柄を守り通すことができ、忠良な国民の皆さんの誠

意を信頼して、常に皆さんと心を共にします。ですから、もし敗戦を知って、激情に走り無闇に争い事を起こしたり、或いは同じ国民が相手を陥れたりして時局を混乱させ、そのために正しい道を踏み誤まり、世界から信頼を失うようなことになることを、私は最も戒めなければならぬと思っております。

宜シク學國一家子孫相傳へ確ク神州ノ不滅ヲ信シ任重クシテ道遠キヲ念ヒ總力ヲ將來ノ建設ニ傾ケ道義ヲ篤クシ志操ヲ鞏クシ誓テ國體ノ精華ヲ發揚シ世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ爾臣民其レ克ク朕力意ヲ體セヨ

どうか国を挙げて一つの家のように団結して子々孫々に伝えてほしいが、それは日本が神の守りたまう不滅の国であることを固く信じ、任務が重く道が遠いことをよく考えて、将来の建設に向けて全力を注ぎ、道義を重んじ信念を固くして、日本らしい国柄の真髓を輝かせ、世界の進む動きに遅れないよう、決意して努力しなければなりません。

国民の皆さん、どうかよく私の真意を理解してほしいと思えます。

〈終戦の詔書（しゅうせんのしやうじよ）現代語訳〉

私（昭和天皇）は、深く世界の大大勢と帝国（日本）の現状を考え、非常の措置を以って時局を收拾しようと思ひ、ここに忠良な国民の皆さんに知らせます。

私は日本政府をして米國・英國・中國・ソ連の四國に対し、その四國共同のポツダム宣言を受け入れるよう通告させました。

そもそも日本国民が平穩なように図り、世界全体が共榮を樂しめるようにすることは、皇室の祖先が遺された規範であり、私も謹んで大事に守ってきました。

先に（昭和16年12月8日）米國と英國に対して開戦を宣告した理由も、また実に日本の独立と東アジアの安定とを念願してのことであり、他國の主權を排するとか、領土を侵すようなことは、もとより私の意思ではありません。

ところが、すでに交戦は四年に及び、私の統帥する陸海軍の將兵が勇敢に戦ひ、また私の任命した多數の官吏が勤勉に働き、さらに私の信賴する全日本人が奉公に努め、各々最善を尽くしているにも拘わらず、戦争の局面が容易に好転せず、世界の情勢も日本に有利な状況になりません。それだけでなく、敵（米國）は新たに殘虐な原子爆弾を使用して、全く罪の無い庶民まで殺傷するに至り、その悲惨な被害は測り知れません。それでも依然として交戦を継続するならば、ついに我が日本民族の滅亡をもたらすのみならず、やがて世界人類の文明をも破壊させることになりかねません。もしこのようなことになれば、私はどうしても我が子のような全國民を守り、先祖の神々に謝罪することができぬか（できません）。それゆゑ、私は日本政府にポツダム宣言を受け入れさせたのです。

私は日本と志を共にして、常に東アジアの欧米からの解放に協力する盟友の國々に対し、遺憾の意を表明するほかありません。また日本國民で戦場において戦死したり、戦場において殉職したり、思ひがけない戦災や被爆などで命を亡くした人々、及びその遺族たちのことに想いを致すと、自分の全身を引き裂かれるほどです。さらに戦場で傷を負ったり、戦災を受けて住む家や仕事を失った人々の生活を安定させるようなことは、私が深く心を痛めているところです。

考えてみると、これから日本國家が受ける苦難は、当然大変なことにならざるをえません。國民の皆さんの心情も私はよく判っています。しかしながら、私は時の運がこうなった以上、耐え難いことを耐え忍び難きも忍ぶることによって、將來の世代のために平和への道を開きた

いと思います。

私はこうして、日本らしい国柄を守り通すことができ、忠良な国民の皆さんの誠意を信頼して、常に皆さんと心を共にします。ですから、もし敗戦を知って、激情に走り無闇に争い事を起こしたり、或いは同じ国民が相手を陥れたりして時局を混乱させ、そのために正しい道を踏み誤まり、世界から信頼を失うようなことになることを、私は最も戒めなければならぬと思います。

どうか国を挙げて一つの家のように団結して子々孫々に伝えてほしいが、それには日本が神の守りたまう不滅の国であることを固く信じ、任務が重く道が遠いことをよく考えて、将来の建設に向けて全力を注ぎ、道義を重んじ信念を固くして、日本らしい国柄の真髄を輝かせ、世界の進む動きに遅れないよう、決意して努力しなければなりません。国民の皆さん、どうかよく私の真意を理解してほしいと思います。

(終戦の詔書・現代語訳 平成27年7月17日 所 功)